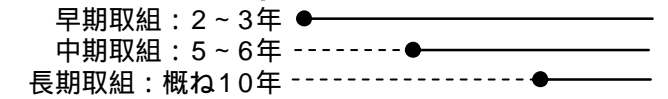


鵜川・ピリカ・プロジェクト 美しい川宣言とアクションプラン

アクションプラン実施のめやす（点線は取組み検討期間）



テーマ	目標		解説	具体例	早期取組	中期	長期	
観光	ようこそ！本物の自然を体験できる鵜川へ	観光資源	ありのままの鵜川こそ観光資源	清流鵜川には、渡り鳥の中継地である河口干潟、黄色いじゅうたんのたんぼ群生地、紅葉がすばらしい福山溪谷、赤や青の巨石おりなす赤岩青崖の景勝地、美しい渓流の源流など豊富な自然環境とシヤマモなどの豊かな生態系、シヤマモカムイノミなどのアイヌ文化、カヌーやラフティングの自然体験など様々な観光資源があります。このような鵜川の魅力を伝えることができる人材も観光のための重要な資源です。ありのままの鵜川こそ観光資源であると考え、鵜川の魅力を流域住民が共有し、流域がひとつになって、この観光資源を守っていきます。また、観光の人材を育成し、鵜川の魅力をより多くの人たちに知ってもらえるように努めます。	・鵜川遺産の認定（集計ランキング）			
		観光戦略	豊かな自然を体験できる鵜川観光	清流鵜川のすばらしさを流域内外の人に知ってもらうために、鵜川流域の自然や産業を活かした体験型の観光を推進します。鵜川の観光資源である清流や豊かな自然、食材、文化を前面に押し出し、カヌーやラフティングなどをとおして、子供たちが豊かな自然を体験できる鵜川の観光を目指します。	・鵜川日帰り観光ルートの企画			
教育文化	アイヌ精神と川育がはぐくむ鵜川	教育	自然・文化・歴史を川から学ぶ川育	鵜川には、渡舟場、流送といった歴史や、川と密接に関わったアイヌ文化、多様な生態系を有する豊かな自然など、子供達の学習素材が豊富にあります。子供達が、このような素材と触れあい、実際に体験することで、鵜川流域のすばらしさを実感でき、自然、文化、歴史を保全や伝承していくための良い経験となります。その経験は将来の鵜川を形成していくために、かけがいのないものになるのではないかと考えます。そこで、子供達が自然、文化、歴史などを川から学ぶ「川育」の推進に努めていきます。	・「親子の川探検」の開催			
		アイヌ文化	アイヌ民族の精神文化を共有し未来に伝承される川	鵜川流域にも、アイヌ語にまつわる地名やシヤマモカムイノミといった川と密接にかかわった鵜川特有のアイヌ文化があります。このような鵜川特有のアイヌ文化を子供の体験活動や交流活動とおして、流域全体で共有し、アイヌ民族の精神文化と誇りを次世代へ伝承していくことに努めます。	・身近なアイヌ語探索講座の開催			
環境	母なる清流鵜川	水環境	命を育む日本一の清流	鵜川は1級河川水質ランキングで全国1位（平成17、18年）にランキングするような全国でも有数の清流です。この清流鵜川はシヤマモ、サケ、米、野菜、メロン、肉牛といった鵜川流域の特産品を生み出し、人間は鵜川から恩恵を受けていますが、近年、なかなか濁りがとれない、河川水位の低下、海岸浸食による河口干潟の減少といった状況が発生しています。そこで森・川・海を一体で守り、命を育む日本一の清流でありつづけるように流域住民が力を合わせていきます。	・河川清掃の実施			
		生態系	多様な生き物が生息できる川	鵜川流域には、サクラソウ、カタクリ、ミズバショウなどの植物、シヤマモ、サケなどの魚類、オジロワシ、オオワシなどの鳥類、ニホンザリガニ、エゾサンショウウオなど多様な生き物が生息しています。また、鵜川河口には人工干潟があり、シギ、チドリなどの渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。このような多様な生き物が生息できる川を人の手により保全し、生き物と触れあう感動を子供達へ伝えていきます。	・鵜川の生物生息マップ作り			
		景観	四季折々の美しさを実感できる川	鵜川流域は、エゾヤマザクラ、タンポポ、新緑の森や田圃、あざやかな紅葉、樹氷やダイヤモンドダストなど色とりどりの四季の姿があり、鵜川の青き水の流れの中で美しい景観を呈しています。そのような四季折々の景観は、心の安らぎと感動を与えるものです。そこで、四季折々の美しさを実感できる鵜川の永久(とわ)の流れを自然のままに保全していきます。さらには、鵜川はシヤマモ伝説が生まれたところなので、河川敷にはいっぱい柳の木や、豊かな自然の中で子供達が無邪気に遊ぶ姿を見ることができるといいます。	・河川清掃の実施			
		川づくり方針	人と自然が共生できる川づくり	鵜川には清流の恵みを得て、様々な生物が生息し、シヤマモといった地域を代表する特産品もあります。一方で過去に大きな災害に見舞われ、今後の洪水被害をなくすために河川整備を必要としています。今後の川づくりを行うに当たっては、洪水被害を軽減することはもとより、ふるさとを川を実感でき、子供、恋人、お年寄りが手と手をつないで歩けるような川、人間と自然が共生できることを目指し、人の川への想いを未来までつなげる川づくりに努めます。	・福祉、癒しの川づくり検討会			
防災	安全・安心な鵜川	情報の伝達	防災情報が行き届く鵜川	関係機関は災害の予測や状況を共有して、適切な判断を行い、正確な情報を住民へ迅速に提供できる体制をつくりたい。住民への伝達は防災行政無線などのあらゆる情報伝達手段を用いて、全住民へ伝達できるように努めます。地域では自主防災組織を結成して、地域ネットワークを構築し、日頃の防災意識の向上や高齢者などの要支援者の把握と地域連携の体制を整えます。災害時には自主防災組織が中心となって、関係機関と地域の情報を共有するための懸け橋となります。	・災害時ご近所連絡網の整備			
		避難	災害をよく知り、ともに助け合う鵜川	過去に災害が発生した時の降雨や河川水位状況と被災した地区とその状況といった過去の災害事例の教訓を活かし、日頃から地域における危険箇所、避難経路、避難場所の把握といった防災訓練を行います。過去の事例から災害の発生が予想される場合には、自主防災組織が中心となって地域内で共に助け合いながら自主的に避難するなど、人命が最優先という意識をもって行動します。	・日頃から備える地域防災講習会			
		防災対策	災害に強い人づくり・川づくり	地球温暖化の影響により、今後集中豪雨が多発し、災害リスクが増大することが予想されています。そこで、河川整備などのハード的対策と防災教育などのソフト的な対策を並行して実施する必要があります。ハード的な対策として、鵜川の良好な自然環境に配慮しながら災害に強い川づくりを実施し、災害リスクの軽減に努めます。ソフト的な対策として、内水氾濫にも対応したハザードマップの整備と活用、子供への防災教育により将来の地域リーダーを育成、防災訓練の実施、日頃の情報共有など、行政が中心となって防災体制の構築に努めます。	・避難所運営体験会（炊き出しの体験）			